

テーマ 東アジア社会におけるワカメの役割

適用分野

民俗学、文化人類学、社会学、歴史学、栄養学

研究名称

韓国社会におけるワカメの果たす役割と機能
—韓中日の薬剤・一般食材・儀礼食材としての多義性を踏まえて—

氏名所属

金 泰虎 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

世界的にみれば、ワカメは一般食材としてはあまり使われないが、東アジア地域の社会ではワカメが一般食材のみならず薬剤・民間信仰や風習の儀礼食材として用いられている。このワカメは現代語の表記であり、前近代の記録では様々な漢字語で表記をしている。つまり、海藻、海菜、海帯、藁、海蘊など多岐に亘っている。ところで、海藻とは一般的に海中藻類の総称で、その種類が多く、現代の学問では概ね褐藻類、紅藻類、緑藻類の三つに分類しており、ワカメは褐藻類に属する。ワカメは前近代の書物、とりわけ明の『本草綱目』、朝鮮の『東医宝鑑』、日本の『大和本草』に紹介されている。これらの書物では、主に薬剤として取り上げられている。

しかし、今日の日韓社会ではワカメは一般食材として食用しているが、中国ではあまり用いない特徴がある。さらに、韓国社会だけでは一般食材としての役割を越え、出産直後の女性や誕生日を迎えた人の儀礼食材として使われている。要するに、ワカメは人間が体内に取り入れる植物であるが、民間信仰や風習とも深く関わっている。

●研究内容

東アジア社会において薬剤・一般食材・儀礼食材という役割を果たすワカメについて、まず前近代の書物に登場する諸用語を網羅し、その中からワカメを特定する。そして、今日の東アジア社会において一般食材として用いられている状況を把握する。さらに、ワカメを薬剤として摂取した際の効能や副作用について現代の医学や栄養学に照らし合わせ、前近代から信じられてきた効能と比較を行う。そのためには、前近代の東アジアにおける医学書のバイブルとも言える『本草綱目』（1578年）、『本草綱目』の内容を継承している『東医宝鑑』（1610年）と『大和本草』（1709年）、ひいては朝鮮の『茲山魚譜』（1814年）の記録も踏まえて分析を行う。

ところで、韓国では薬剤としてではなく、出産と誕生日において儀礼食材としての役割を果たすワカメの機能についても考察する。本来、ワカメの薬剤と儀礼食材とは役割と機能が異なっており、どのような理由、そしていつ頃からその儀礼食材の役割が生まれたのかについて追究を行う。儀礼食材としてのワカメの分析は、民間信仰や風習の成立起源に繋がる大きな問題ではあるが、その論証を行う。

キーワード

ワカメ、海藻、民間信仰、風習、『本草綱目』、『東医宝鑑』、『大和本草』

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究